

卒業論文の要旨

論文題目	アメリカにおける女性ホームレスと支援
氏名	渡井 咲綺
メジャー	アメリカ地域研究
<p>(要旨)</p> <p>本稿では 1~3 章でコロナ禍以前のアメリカにおけるホームレスの現状と支援について、特に女性ホームレスが抱える女性特有の問題に焦点を当てて論じた。4 章と 5 章では 2020 年の新型コロナウイルス感染症がアメリカで爆発的に拡大した影響について、特に女性ホームレス独自の困難がどう深刻化したのか考察した。</p> <p>序論で立てた五つの問いに即して、明らかになったことを以下に示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 女性ホームレスと生理：女性ホームレスが生理用品を手に入れることは困難で、ゴミ箱から拾った古い紙袋や布、新聞紙等を代用品として使用し、衛生上の問題があった。 2) サンフランシスコ市のホームレスの多さ：2018 年の調査によると、サンフランシスコ市はホームレス人口では全米 7 位、1 km²あたり人数ではシリコンバレー地域、ニューヨーク市に次いで 3 位である。都市部におけるホームレス増加の原因には所得格差の拡大、居住地域の高級化による貧困層の締め出し等があるが、特にシリコンバレー地域では企業進出ラッシュによる居住者急増で住宅価格が高騰し、高所得者でも家賃が払えずに家を失うという経緯があった。サンフランシスコ市の状況は、都市部に共通する要因とシリコンバレー特有の問題が一因としてあげられる。 3) 新型コロナウイルスの影響：ロックダウンにより経済活動が制限され、失業率が大幅に高くなった。中でも女性の就労が多かった職種の失業率が高く、新型コロナウイルスの流行が女性の貧困率に拍車をかけ、大量の女性ホームレス予備軍を生んだ。 4) コロナ禍のホームレスの現状と課題：長期化するコロナ禍の影響で食料やボランティア人員が不足している。多くの施設や店舗が閉鎖されたことにより、手洗いやうがい、トイレの利用すら困難な状態である。 5) コロナ禍でのホームレス支援の変化：客のいないホテル等の空室の提供やシェルターの増設、手洗い場や簡易トイレの設置等が行われているが、食料や衣料などの支援は依然として不十分なままである。総じて、居場所の確保が優先され、女性が健康に過ごすために必要な生理用品の支援の優先順位が下がるなど、コロナ禍において女性の健康問題は陰に隠れ、深刻化している。 	
<p>(指導教員の推薦のコメント)</p> <p>サンフランシスコへの短期留学で目にした光景から、アメリカにおけるホームレス、特に女性のホームレスについての問いを持ってゼミ論にとりくみ、さらに、新型コロナ感染症の流行拡大の中でホームレスの状況と支援活動がどうなっているか、まさに同時進行で 1 年間をかけて取り組んだのがこの卒業論文である。基礎的な文献調査と政府統計等の読み込み、ネット資料による最新情報のフォローに基づいて、自らの問いに答えるという姿勢が貫かれていること、自らの体験に基づいた考察がされていること、資料の提示にも工夫がされていることが、優れた成果として結実している。</p>	